

## 不定代名詞

### 1. 不定代名詞とは

読んで字のごとく「不特定の人・物・数・量を表す語」を不定代名詞といいます。

この代名詞は非常に重要なものです。それぞれどんな場合に使うのか、そしてどのように使うのかを理解して、正しく使えるようになって下さい。

### 2. 使い方

#### 1 some と any (いくつか)

some と any は、2つとも意味は同じですが、some は肯定文で any は否定文・疑問文でそれぞれ使います。

例えば、「私は何枚か写真を持っています。」これを英作すると、

⇒ I have some pictures.

では、この文を否定文と疑問文にしてみます。上記にもありますが、注意点として、some は「否定文・疑問文では any」になります。そして、否定文の any は「ひとつも～ない」の意味になります。疑問文の any の意味は変わりません。

[否定文]

**I don't have any pictures.**

(私は一枚も持っていません。)

[疑問文]

**Do you have any pictures?**

(あなたは写真を何枚か持っていますか。)

このように正しく **any** と **some** を使い分けて下さい。

しかし本来なら使わない、**some** を疑問文、**any** を肯定文で使う場合もあります。それは次のような時です。

○ 疑問文の **some** → 何かをすすめる時

例文：

**Would you like some tea?**

(紅茶はいかがですか。)

何かをすすめて、相手が **Yes** と言うのを期待するときに **any** ではなく **some** を使います。

○ 肯定文の **any** → どれでも、だれでも

例文：

**You can use any tool.**

(どの道具でも使ってもいいですよ。)

この場合、**any** + 単数形 になることも注意して下さい。

## 2 another (別の1つ)

**another** はすでに出てきた名詞の代わりに使います。

例文：

**I read a book and bought another.**

(私は本を一冊読み、もう一冊買いました。)

また、形容詞として使うこともあります。

例文：

**Would you like another cup of coffee?**

(コーヒーをもう一杯いかがですか。)

## 3 other (ほかのもの)

**other** は様々な使い方があります。

### ○ **the other** (2つのうちの残り1つ)

例文：

**I ate one piece of cake and my brother ate the other.**

(私がケーキを1つ食べて、残りの1つを弟が食べました。)

### ○ **the others** (いくつもあるうちの残り全部)

例文：

**I ate two pieces of cake and my brother ate the others.**

(私がケーキを2つ食べて、残り全部を弟が食べました。)

○ others (ほかのいくつか)

例文：

**I ate some pieces of cake and my brother ate others.**

(私がいくつかケーキを食べて、ほかのいくつかを弟が食べました。)

4 all (すべて) と none (すべて…ない)

○ all+of+～ (～すべて)

例文：

**All of the story was written by him.**

(その話のすべては彼に書かれた。)

**All of them were surprised at the news.**

(彼らの全員がその知らせに驚きました。)

○ none+of+～ (～すべて…ない)

例文：

**None of the students knew the accident.**

(生徒全員がその事件を知りませんでした。)

5 both (両方) either (一方) neither (両方とも～ない)

○ both of +～ (～の両方)

例文：

**Both of the girls belong to the brass band club.**

(その女の子は二人とも吹奏楽部員です。)

また、both の否定文は部分否定といってよく出題されます。

例文：

**Both of us are not to blame.**

(我々二人ともが悪いわけではありません。)

○ either of +～ (～の一方)

この形は通例単数扱いですが、複数扱いで使われることもあります。ここでは単数扱いとして例文を紹介しています。

例文：

**Either of the girls belongs to the brass band club.**

(その女の子の一人は吹奏楽部員です。)

○ neither of +～ (～の両方とも…ない)

この形は通例単数扱いですが、複数扱いで使われることもあります。ここでは単数扱いとして例文を紹介しています。

例文：

**Neither of the girls belongs to the brass band club.**

(その女の子の両方とも吹奏楽部員ではありません。)